

< 担い手への農地集積等を実施している事例 >

## 農事組合法人が地域農業を守り発展させる

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	大分県由布市 <sup>ゆのき</sup> 柚の木			
協定面積 25.3ha	田(100%) 水稲・大豆・ソバ・野菜	畑	草地	採草放牧地
交付金額 532万円	個人配分			41%
	共同取組活動 (59%)			
	共同機械導入経費		農道整備	37%
	農道整備		農地管理作業等	12%
				10%
協定参加者	農業者17人、農事組合法人ゆのきナチュラルファーム(構成員17人)、非農業者2人			

### 2. 取組に至る経緯

#### ・集落の抱える課題

農業者の高齢化、後継者の減少、農業基盤(圃場・農道・水路)整備の遅れ

#### ・協定締結までのプロセス

地域農業が衰退し耕作放棄地の増加が進む中で、農業を守り育てていくには地域ぐるみで考えていかなければ解決できないことから、協定の締結が必要になった。

協定については、生産性の向上や地域の活力を高めるためのマスタープランについて、参加農家が意見を出し合いながら策定を行った。

### 3. 取組の内容

協定の取組により、地域農業の担い手となる集落営農組織を法人化して「(農)ゆのきナチュラルファーム」を設立した。このことにより農地の集積や機械の共同化、共同作業が進み、水稲や大豆、ソバ等の低コスト化や作業の効率化が図られており、地域内の高齢者を雇用して行う野菜の生産も拡大している。

基盤整備が遅れ農道舗装が必要であることから、コンクリート舗装を共同作業で進めており、また水路改修は補助事業と共同取組の経費で現在実施中である。

今後、地域の特産であるソバを活かして、地域内農産物の流通拡大を進めるため、加工所や直販所の整備を計画しており、体験型による消費者との交流も検討している。



法人組織による野菜選別作業

[ 集落の将来像 ]

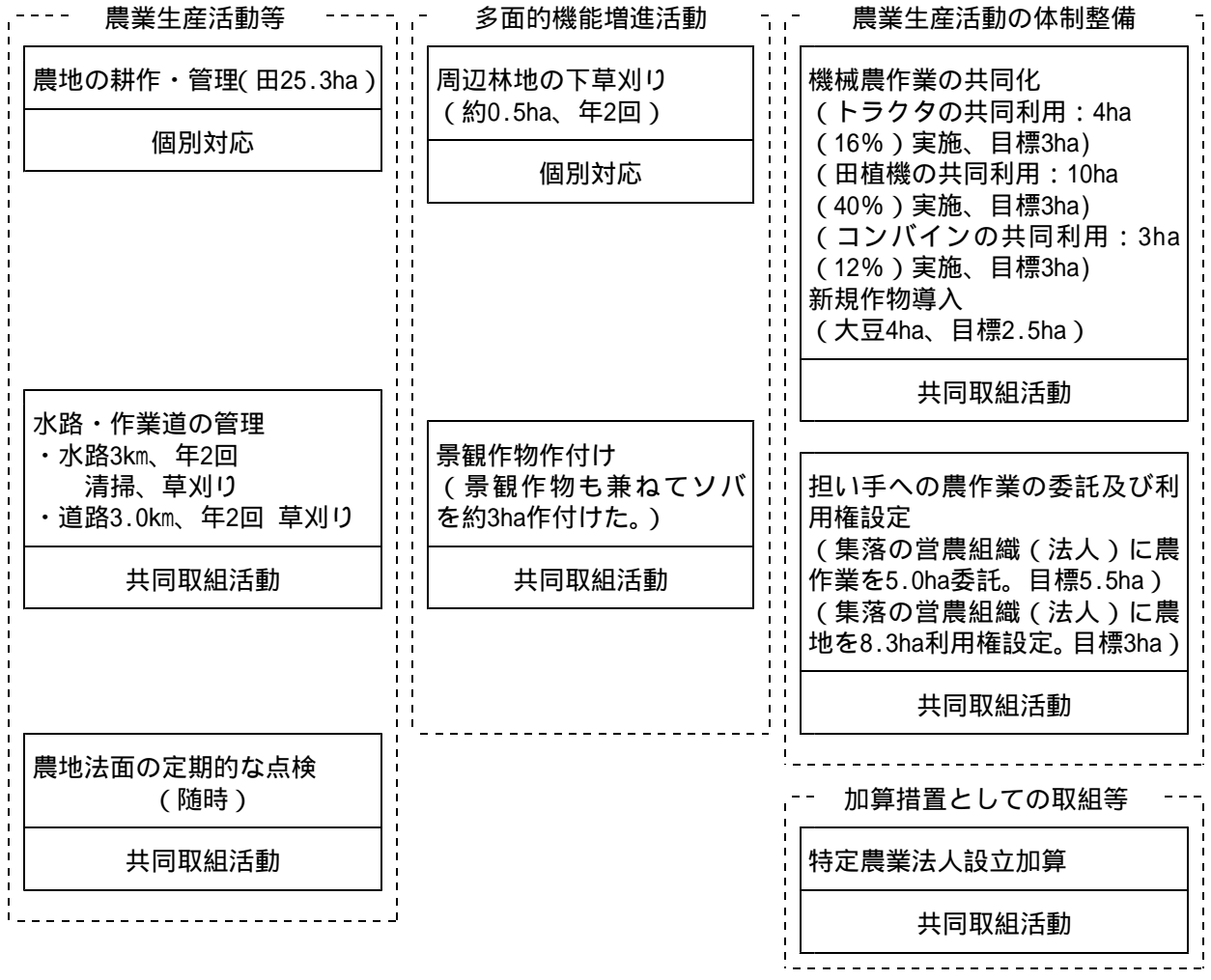
地域農業の担い手の育成、農業基盤の整備、新規作物の導入を行い、生産性向上を図るとともに、農村景観の整備活動を行い、将来にわたって豊かに暮らせる地域づくりをめざす。



[ 将来像を実現するための活動目標 ]

農作業受託等を行う農業生産組合を設立し、地域の担い手として機械の共同化や農地の集積を行う。また、新規作物の導入を図り高付加価値農業の実践を行うとともに、農道・水路の整備を図る。

[ 活 動 内 容 ]



4. 取組による変化と今後の課題等

集落内に担い手となる法人が設立され、農地を安心して任せられる体制ができた。

以前は個別経営が主体であったが、共同化が進み農業の生産性が向上し、住民同士の繋がりが深まり、みんなで集落を守るという意識が高まった。

今後の課題としては、少しでもUターン・Iターン者が増加し、都市部からの来訪者が癒されるような環境づくりと交流活動を進めていくことが課題である。

[ 平成20年度までの主な成果 ]

担い手への利用集積による体質強化(当初0ha、目標3ha、H20実績8.3ha)  
 高付加価値型農業の実践(大豆：当初0ha、目標2.5ha、H20実績4.0ha)